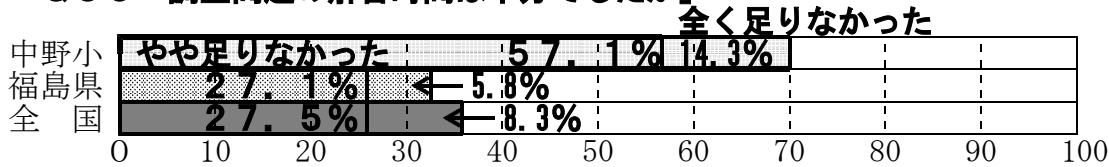


全国学力学習状況調査「児童質問紙」より(10)最終回

Q86「調査問題の解答時間は十分でしたか」



今回の学力テストでは、時間が足りなかったと答えている児童が多く、県や全国の倍以上に達しています。今回のテストは、問題文が総じて難解で回りくどい表現が多く、問題文を読み解くことに時間を要したため、仮に問題の意味さえ分かっていたら解くことが出来た問題でも、**問題そのものを理解するのに時間を費やしてしまった影響が大きい**と思われます。これからは読解力の強化が最大の課題であると思います。

6年生はもうすぐ中学生になります。そして中学3年時には高校入試が待っています。学力テストと入学試験は全く別物ではありますが、入試で合格するには1問でも1点でもよい成績をとらなければならないのも現実です。そのためには、例えば「順不同でもできる問題から解く」・「分からなかったら飛ばしておいて後で戻る」といったテストの戦術も身につけて行かなければなりません。つまり、**1**を見て難しそうだったら**2**や**3**から解く、より得点しやすい問題から解く、といったことです。できそうもない問題はとりあえず捨てて、確実に解ける問題からやって、最後に難問に挑戦するのが常道です。こうした「受験テクニック」は本来の学力とは別ですが、必要なことであるのは間違いありません。これも今後少しずつ身につけて行けるように手立てを考えてまいります。

第28号で学力学習状況調査の全体分析を公表し、その後10回に渡って「児童質問紙」の分析をお伝えして参りましたが、いかがでしたか？ご意見・ご質問などありましたら、いつでもお寄せください。学校としても今後の授業の改善に生かしていきたいと考えております。

桃李の里



福島市立中野小学校

学校だより

発行：校長 益子

朗

校長のつぶやき おねがい

今回の少し重いお話で恐縮ですが、保護者の皆さんにぜひご理解を頂きたいことがあります。先日解る新聞に、

「自立を阻む『支援慣れ』」

という記事が載っていました。発達障害の子供たちが、支援を受けながら成長していく中で、自立の機会が減少しているという現状が、支援者や関係者の間で認識されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。

支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。

支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。

節減の努力を、工夫を凝らすことで、負担を減らし、子供たちの自立を促すことが大切です。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。



支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。

支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。支援が過度になると、子供たちが自立する機会を失ってしまうという問題が指摘されています。

